

住宅の省エネと健康に関する実態調査結果一覧

註) () 内数値は重複意見数を示す。

配布数	23	回収数	21	回収率	91.3%
-----	----	-----	----	-----	-------

問1 ZEH水準以上の供給実績について (注) () 数値はZEH水準以下も含めた全体供給戸数

	令和2年	令和3年	令和4年	計	ZEH水準以上割合
新築	379 (1562)	666 (1633)	964 (1392)	2,009 (4587)	43.8%
既存	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0.0%
計	379 (1562)	666 (1633)	964 (1392)	2,009 (4587)	43.8%

※) 上表はハウスメーカー9社の実績の合計数を示す。

問2 供給している住宅の断熱性能、省エネ機器、再生可能エネルギー設備設置状況について
【省エネルギー基準の評価方法】

標準計算ルート	簡易計算ルート	モデル住宅法	仕様ルート	不明	計
16	2	1	0	0	19
84.2%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	100.0%
自社で計算	外注	計			
14	4	18			
77.8%	22.2%	100.0%			

【断熱性能】

	HEAT20		ZEH		等級4		等級3		計	
標準仕様	0	0.0%	14	77.8%	3	16.7%	1	5.6%	18	100.0%
推奨レベル	2	33.3%	4	66.7%	0	0.0%	0	0.0%	6	100.0%
計	2		18		3		1		24	

自由記入
・HEAT20以上の性能を有する建物は理想だがコストが上がるためZEHレベルが妥当。
・主商品はUA値0.6クリア、別商品G2(0.34), G3(0.23)も所有。

【気密性能】

設けている	設けていない	計
7	11	18
38.9%	61.1%	100.0%

自由記入
・測定に時間がかかる。
・義務化されていないし、24時間換気と矛盾している。
・基準は最低0.8であるが、測定段階で0.6を達成。
・気密測定機と講習がセットの補助制度を。

【省エネ設備】

設置実績 (複数回答可)		消費者の意向等	
LED照明	16	高断熱浴槽	15
エコキュート	16	人感センサー	10
エコジョーズ	4	その他	1
エネファーム	4	計	66

・既存住宅の省エネ化をもっと推奨すべき。
・子どもエコすまいの補助金を取得するため、エネファーム、ハイブリット、エコキュートの3機種の採用が増加。

【再生可能エネルギー設備】

設置実績 (複数回答可)		消費者の意向等	
太陽光発電設備	9	その他	0
蓄電池	2		
太陽熱利用設備	0		
地中熱利用設備	0		
木質バイオマス	0	計	11

・太陽光発電は2022年より採用しているが、蓄電池は安価になれば採用したい。
・エネファームは設置費用が高い。エコキュート、エコジョーズよりガスハイブリット給湯器(LPG)の設置が多い。
・CNを推進する上で省エネと創エネは必須。

(※1) ウッドマイルズ: 「木材量×距離数」で表す。日本の木材自給率は約18%。その内、遠隔地の南米、アフリカ、オセアニアからの輸入割合は40%。木材量×距離数=約400億kmになる。

(※2) BELS: 建築物省エネルギー性能表示制度。建築物省エネ法第7条に基づき、建築物の省エネ性能を表示する第三者認証制度の一つ。

問3 太陽光発電設備の普及に係る課題について (複数回答可)

課題	・日照時間が短い。積雪が多い。(13) ・費用対効果が期待できない。(6) ・売電を自家消費への意識の転換。(3)	・敷地内に落雪スペースがない。(3) ・補助制度の拡充。 ・施工方法のセミナー。
----	---	--

問4 県産材の利用について (複数回答可)

意見	・県産材は他産地より割高、補助の増額。(5) ・高く、品質が悪いので不使用。(5) ・JAS構造材の供給量が足りない。(3)	・施主の要望があれば対応する。(3) ・ウッドマイルズ(※1)の観点から近隣材を使用。JAS材等の指定では近距離材は使用できなく、対策が必要。
----	--	--

問5 住宅の省エネと健康に関する消費者の傾向(住宅全般)、事業者としての課題・取組み事例について (複数回答可)

消費者の傾向(関心)	・関心は高まっている。(11) ・初期投資と維持費のコストバランス(5)	・関心は高いが、資材や物価高騰で消極的。(2) ・ZEHレベル以上を望む人が多い。
課題	・関心は高いが、資材や物価高騰で消極的(6) ・より高い省エネ水準の商品開発。(4)	・ヒートショックを防ぐ家全体の温度差コントロール(4) ・施工方法や断熱材不足(3)等
取組事例(主な意見)	・等級6,7等、基準以上のモデル住宅を目指す。(3) ・中古住宅のフルリノベーション(断熱・耐震改修等)提案。 ・冷暖房、自然通気等、家全体の空間計画。	・宿泊体験、セミナーの実施。 ・So-Raファームはエネファームと太陽光発電のセットサービス。 ・太陽光発電設備のリース販売。

問6 県独自の住宅性能水準(ZEH(0.6)以上)の導入について

意見 望ましい基準	・ZEH以上が望ましい。(7) ・現状で良い。(5) ・ZEHが望ましい。(2) ・補助、研修制度の充実。(2)	・段階を設け、選択可能に。 ・ZEHは最低条件、太陽光発電は必須とすべき。
--------------	---	--

問7 性能水準のプラスαについて(富山型ウエルビーイング住宅(仮称)の基準の参考として)

意見(主な意見)	・地域特性として「湿気」対策がある。 ・設備面だけでなく、軒の出、植栽・通風、暖房計画等、気候風土、環境特性に応じた快適性確保。 ・防災の視点。(蓄電、非常用水タンク設置等)	・太陽光パネルから落雪するため、積載荷重の軽減。 ・地域ごとの風向、日照等、自然を生かした基準。 ・県内は雨、雪が多いため、外壁の耐久性の検討を。 ・街に開かれた外観、スペースに対する補助制度。
----------	---	--

問8 性能水準の推進方策について (複数回答可)

意見	・補助金の他、地銀ローンの金利優遇措置。(7) ・動画配信、メディア活用。(5) ・国の補助と併用できる県の補助制度。(2) ・富山でも発電可能なリフレット作成。(2)	・モデル事業と体験施設整備。(2) ・普及啓発専門員を創設し、活動を委託。
----	---	--

問9 その他(どんなことでも自由にご記入ください) ※) 既存住宅改修に関する意見は「資料3-1」参照

意見(主な意見)	・発電・蓄電コントロール会社が注目されており、富山にモデルができれば参加したい。 ・耐震性、防災対応も合わせた制度の創設を望む。 ・既存住宅のZEHレベルの断熱改修は、耐震改修同様に高齢世帯にとってはハードルが高い。	・国の補助制度との併用が普及につながると考えられる。 ・BELS(※2)取得、気密測定の費用補助及び気密測定技能者育成や機器購入に対する補助制度。
----------	--	--